

5年次末試験問題作成の一般的留意事項

1. 題材の選択

1. **モデル・コア・カリに準拠**。医師国家試験出題基準に準拠した統合的問題。
2. 日常診療でよくみられる疾患を中心とする。非常にまれなものは出題しない。
3. 成因などで意見が分かれているものは避ける。
4. 自分の専門領域に限定しない。
5. 法規に関する設問は、知らないと医師が罰せられたり社会や患者に迷惑を及ぼすものに限る。
6. 出題がある領域に偏らないように配慮する。
7. 解釈レベルや問題解決レベルを多くする。
8. 基本的な重要な事項を扱う。

難易度

目安	回答率 80%
	正解率 50% (60~65点)
	解答時間 1分ないし2分

2. 設問文

1. 簡潔、明瞭な記述である。
2. 難易度を適切にする。
3. 必要十分な内容でヒントを含まない。
4. 設問は疑問文になっている。
5. ひっかけの文章を用いない。
6. 選択肢の中で共通している語句は設問文にまとめる。
例 「糖尿病の××は○○である。」
「糖尿病の★★は●●である。」
「糖尿病のAAはSSである。」
設問文で「糖尿病について正しいのはどれか。」とまとめる。
7. 単一の課題について設問する。
8. 設問に否定形を使うときは **ゴシック体に太字でアンダーライン**
「誤っている」 「…から**除外できる**」 「…に**含まれない**」 「有用で**ない**」
「…に**みられない**」 「…が**禁忌**であるのは」 「**関係ない**」 「**異常な**」 「**適切でない**」
9. 「次のうち」や「下記の」や「1つ選べ」は不要。「2つ選べ」は必要。
10. 否定形はできるだけ使わず、使うときは**下線 (ゴシック体)**
11. 人名を冠した疾患や症候群、検査法、術式などは極めて有名なものに限る。(国家試験出題基準を参照)
12. 数値に関する設問は、治療を行うにあたり常に記憶していなければならないものに限る。
(検査値のページをみることが出来る。国家試験出題基準を参照)
13. 性差に関する設問は、必ず知っている必要のあるものに限る。

14. ×○○○をきたすものはどれか。→○○○○をきたすのはどれか。(ものは不要)

設問文の表現方法

※ 必ず「○歳の△」と記載する。△の部分は年齢によって表記の方法が違うので、注意する。

来院理由は、「○○を主訴に来院した。」「○○のため来院した。」と表記する。その他、「○○のため救急車で搬送された。(救急に関する問題の際)」「母親が○○に気づき来院した。(小児の問題の際)」「○○のため家人に連れられ来院した。(精神疾患の問題の際)」等のバリエーションがある。

※ 所見を記載するときは、まず、「○○所見：」としてから記載する。また途中は「、」でつなぎ、最後に「。」で終了してから次の所見を記載する。

表記方法については、医師国家試験出題基準に準拠する。また基準値(範囲)を示さなくてよい検査もあるので注意する。基準値(範囲)については、**医師国家試験出題基準に準拠する。(本留意事項のP7～P9参照)**例えば「血清アミラーゼ 50 単位(基準 37～160)」というように記載。「正常値」ではない。「単位」は括弧外)これらの検査は、解答には関係ない検査を省略することも可能だが、一般的な検査についてはできる限り(異常値を示していない検査も含め)記載する。

※ **現症**：「身長」「体重」「体温」「脈拍」「血圧」「呼吸数」の順に記載する。(これらのうち、一部を省略することも可能。)

単位について 体温：℃
 脈拍：／分、整・不整
 血圧：mmHg
 呼吸数：／分

※ **身体診察所見**：「視診」「聴診」「触診」「打診」の順に記載する。

肝臓・脾臓を触知する場合は、「肝を右肋骨弓下○○cm 触知する。」「脾を左肋骨弓下○○cm 触知する。」と記載する。

※ **検査所見**の提示順：「尿所見」「血液所見」「血清生化学所見」の順に記載し、画像検査等は最後に記載する。

※ **尿所見**：「肉眼所見」「尿量」「比重」「浸透圧」「pH」「定性試験結果(蛋白、糖、ウロビリノゲン、ビリルビン、尿潜血 etc)」「定量試験(蛋白、糖 etc)」の順に記載する。最後に「尿沈渣検鏡」「細菌検査」になる。

※ **血液所見**：「血沈」「赤血球」「Hb」「Ht」「網赤血球」「白血球(桿状核好中球、分葉核好中球、好酸球、好塩基球、単球、リンパ球)」「血小板」の順に記載する。次に「止血機能検査(出血時間、全血凝固時間、PT、APTT….)」「造血能／溶血に関する検査(TIBC、UIBC….)」「血液型／輸血関連検査」の順に記載する。

単位について 赤血球や血小板：万のみ(赤血球 420万)
 白血球：単位つけず
 Hb：g/dl
 Ht：%をつける
 白血球分画にはすべてに%をつける

- ※ **血清生化学所見**：「血糖」「蛋白（総蛋白、Alb、蛋白分画、免疫グロブリン…）」「尿素窒素、クレアチニン」「脂質」「ビリルビン」「酵素（AST（GOT）、ALT（GPT）、LDH、ALP…）」「電解質」「ホルモン」の順に記載する。
- ※ **免疫学検査**：「感染症抗体」「自己抗体」「補体」「免疫蛋白」「腫瘍マーカー」の順に記載する。なお、CRPのみを記載する場合は、「免疫学検査：」は省略して「血清生化学検査」に続けて記載する。
- ※ その他、診療科に特殊な検査については血清生化学所見の後に記載する。
- ※ **画像検査**については、通常、X線（単純、造影）、CT（単純、造影）、MRI…の順に記載する。（記載方法は、**出題基準参照**。）
- ※ **病理組織学検査・細胞診**については、染色方法を必ず記載する。

選択肢 (alternative)

- 1) 二重否定（設問が否定形なら選択肢は肯定形）、二律背反、ナンセンス肢にしない。
- 2) 選択肢はすべて対等の重み、同一範疇の事象。
- 3) 選択肢はもっともらしいもので。
- 4) 選択肢の長さはだいたい等しく。長過ぎない。
- 5) 1つの選択肢に2つ以上の内容を含まない。
- 6) 論理的な順序（数、部位、方法、領域など）にする。
1つの疾病ならば、病因、病理学的所見、症状、検査、診断、治療という順次性。
部位ならば、頭側より尾側に。
- 7) 一つの肢を否定すれば他の肢も否定できるような肢を含まない。
- 8) **One best** を念頭に
- 9) 限定句「必ず」「常に」「すべて」や「- - -のことがある。」などは用いない。
- 10) 選択肢は文法的に統一（時制、体言止め）し、設問文とも一貫している。
- 11) ヒントを含まない。
- 12) 「a…である。b…でない。c…である。d…である。e…である。」という選択肢で、bが正解は望ましくない。

表現・用語

- 1) すべての受験者が同じように解釈できる用語
- 2) 表現が明確・簡単。問題を解く上で必要にして十分な内容。不必要な文学的表現は避ける。
- 3) 専門医学用語は**医師国家試験出題基準**に準拠する。
- 4) 特異な医学用語は英語または原語による括弧書きをつける。
- 5) 常用漢字、現代仮名づかい。
- 6) 数字は算用数字。（「一週間」→「1週間」、「三日間」→3日間）
- 7) 単語で終わるときは、「。」はつけない。
- 8) 人名は原語表記（例：Hirshsprung 病）
- 9) 薬品名は市販名を避ける。×利尿剤 ○利尿薬
- 10) 動・植物名はカタカナ、細菌はイタリック、ウイルスはローマン体
- 11) 千の単位で『、』 10,000 分数は1/10

1 2) 年齢別呼称

- 4 週未満 : 新生児
 - 4 週～1 歳未満 : 乳児
 - 1～12 歳 : 男児、女児
 - 13～18 歳 : 男子、女子
 - 19 歳以上 : 男性、女性
- 「才」→「歳」、「3ヶ月」→「3か月」

解答コード

Aタイプ:

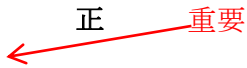
- a
- b
- c
- d
- e

Xタイプ:

- X2: 正しい(誤っている)のはどれか。2つ選べ。
- X3: 正しい(誤っている)のはどれか。3つ選べ。

問題作成上特に注意すべき表現

1.

正	重要	誤
～CT		×～CT <u>写真</u>
ERCP		△ <u>内視鏡的逆行性胆管膵造影</u> (ERCP) (省略可)
hMG-hCG 療法		×HMG-HCG 療法
45,XO		×45XO (, が必要)
インドメタシン		×インドメサシン
イソニアジド		×イソニアシド
うつ病		×鬱病
還元ヘモグロビン濃度		×還元 Hb 含量
健康診査 (3 歳児健康診査、1 歳 6 ヶ月健康診査)		×検診
健康診断		×検診
(学校保健法によるものは「健康診断」。その他、根拠法令のあるものは法令文に従う)		
(なお、「検診」は「がん検診」、「胃がん検診」、「乳がん自己検診」等に使用)		
健康人		×健康正常人
～歳ころ		×～歳 <u>ごろ</u> 、～歳 <u>頃</u>
ジアゼパム		×ジアゼパン
7%重炭酸ナトリウム静注		×7% <u>炭酸水素</u> ナトリウム <u>投与</u>
睡眠時無呼吸症候群		×睡眠無呼吸症候群
生検 H-E 染色標本		×生検光顕 HE 染色標本
正期産		×満期産

成人 T 細胞白血病ウイルス
せん妄
ドレナージ
肺表面活性物質
梅毒トレポネマ
ヒト免疫不全ウイルス (HIV)
プレドニゾロン
フィブリノゲン
ホスファターゼ
ポピドンヨード (イソジン)
マニトール

×成人 T 型細胞白血病ウイルス
×譫妄
×ドレナージュ
×肺サーファクタント
×梅毒トレボネーマ
×HIV (単独で使用する場合のみ)
×プレドニゾロン
×フィブリノーゲン
×フォスファターゼ
×ポピドンヨード (イソジン)
×マンニトール

2. 表現

児頭の下降度は SP+1cm
特記すべきことはない。

×児頭の下降度は Sp+1cm
×特記すべきことなし。
×特記すべきものはない

心雑音なし
～と～とが

×心音は清
×～と～が

[A]、[B]および[C]
[A]、[B]及び[C]

[B]が漢字の場合は「および」を使用
[B]がひらがな等の場合は「及び」を使用

3. 使い分け

がん

統計上、各種のがんを総称して使用する場合は、
法的に使用している場合(がん検診)

癌

疾病名として使う場合(肺癌、乳癌)

クレアチンキナーゼ

解答肢として使う場合

CK

文章中で使う場合

シンチグラム

写真

シンチグラフィ

行為

アドレナリン

血中ホルモンとして使う場合

エピネフリン

薬剤として使う場合(薬物の一般名として使用されている)

燐

解答肢に単独で使う

P

文章中の血清生化学所で使う

尿中リン、ーリン酸化合物、低リン血症

その他の表記

【法的表現の場合当該放棄の表現とする。有機リン(水道法)、
有機リン(境基本法)】

4. その他の表記に関する特例

『組み合わせ問題の表記』(第 94 回試験から適用)

○A と B の組み合わせで正しいのはどれか。 ←よく使う表現

×A と B との組み合わせで正しいのはどれか。

『エックス線を必ず省略する例』

○胃造影写真

×胃エックス線造影写真

『単純を必ず省略する』

○胸部エックス線写真

重要

×胸部エックス線単純写真

『血液ガス分析の記載』

採血時の呼吸条件「呼吸方法（自発呼吸、人工呼吸）」「ガスの性状（room air、40%酸素等）」を記載する。単位は Torr

『細菌名を横文字で記載する場合』→イタリック

頭は大文字【例 *Candida albicans*】

『ノンストレステスト (NST)』

ノンストレステスト (NST)：解答肢中として使用する場合

『横指は使用しない、cm で表示する』

その他間違いやすい字（略字は使用しない）

正しい

間違い

歳

才

頸

頸

齡

令

幅

巾

後

后

来

未

ほかに 末と未、貧と貪など。

基準値*1を省略できる検査項目

() 内への基準値の記載は不要

	検査項目	基準値(成人)	
血液学検査	赤沈	男 2～10mm/1時間 女 3～15mm/1時間	
	赤血球	男 410～530万 女 380～480万	
	ヘモグロビン<Hb>*2	男 14～18g/d/ 女 12～16g/d/	
	ヘマトクリット<Ht>*2	男 40～48% 女 36～42%	
	網赤血球<Ret>	0.3～1.1‰	
	白血球*2	4,000～8,500	
	桿状核好中球	4～14%	
	分葉核好中球	43～59%	
	好酸球	2～4%	
	好塩球	0～2%	
	単球	3～6%	
	リンパ球	26～40%	
	血小板	15～40万	
	生化学検査	空腹時血糖	60～100mg/d/
		総蛋白<TP>	6.5～8.0g/d/
アルブミン<Alb>		4.5～5.5g/d/	
蛋白分画 Alb		61～73%	
α ₁ -グロブリン		2～4%	
α ₂ -グロブリン		4～9%	
β-グロブリン		7～11%	
γ-グロブリン		11～20%	
尿素窒素		8～20mg/d/	
クレアチニン		男 0.8～1.3mg/d/ 女 0.6～1.1mg/d/	
		男3.0～7.0mg/d/ 女2.5～6.5mg/d/	
総コレステロール		120～250mg/d/	
総ビリルビン		0.2～1.0mg/d/	
直接ビリルビン		0.4mg/d/以下	
間接ビリルビン		0.8mg/d/以下	
Na		135～147mEq//	
K		3.5～5.0mEq//	
Cl		99～106mEq//	
Ca		8.6～10.2mg/d/	
P		2.5～4.5mg/d/	
Fe	70～160μg/d/		
*1	健常者の95%を含む中央部分を特に基準範囲と呼び、母集団の選び方によって多少異なる。また年齢によって異なる項目もある。		
*2	毛細血管では、約15%高めとなる。		
*3	日本糖尿病学会による診断基準では、静脈全血と毛細血管では100mg/d/以下としている。		
*4	日本プリン・ピリミジン代謝学会による提案では、7.0mg/d/以上を高尿酸血漿としている。		
*5	日本動脈硬化学会による提案では、220mg/d/以上を高脂血症としている。		

- の項目は CBT では、参照画面で見ることが出来ますから基準値の記載は不要です。
- のついてない項目は基準値を () 内に記載する必要があります。

基準値一覧

1. 一般検査

尿検査

浸透圧 mOsm/ l 基準 50～1,300

尿中アミラーゼ 単位 基準 95～1,450

2. 脳脊髄液検査

圧 mmH₂O 基準 70～170

細胞数 /mm³ 基準 0～2

蛋白 mg/ d/ 基準 15～45

糖 mg/ d/ 基準 50～75

3. 血液学検査

平均赤血球容積〈MCV〉 $\mu\text{ m}^3$ 基準 83～93

平均ヘモグロビン量〈MCH〉 pg 基準 27～32

出血時間 分 基準 7分以下

プロトロンビン時間〈PT〉 秒 基準対照 11.3

〃 秒 基準 10～14

〃 % 基準 80～120

APTT 秒 基準対照 32.2

フィブリノゲン mg/ d/ 基準 200～400

フィブリノゲン (28歳;非妊娠時) mg/ d/ 基準 200～400

血清 FDP $\mu\text{ g/m/}$ 基準 10以下

総鉄結合能〈TIBC〉 $\mu\text{ g/ d/}$ 基準 290～390

4. 生化学検査

ヘモグロビン A_{1c}〈HbA_{1c}〉 % 基準 4.3～5.8

TTT 基準 0.6～9.4

ZTT 基準 4.0～14.5

IgA mg/ d/ 基準 110～410

IgG mg/ d/ 基準 960～1,960

IgM mg/ d/ 基準 65～350

IgM (日齢14) mg/ d/ 基準 0～20

パプトグロビン mg/ d/ 基準 19～170

フェリチン ng/ m/ 基準 20～120

アンモニア $\mu\text{ g/ d/}$ 基準 18～48

● トリグリセライド〈TG〉 mg/ d/ 基準 50～130

● AST〈GOT〉 単位 基準 40以下

● ATL〈GPT〉 単位 基準 35以下

LDH 単位 基準 176～353

アルカリホスファターゼ〈ALP〉 基準 260以下

好中球アルカリホスファターゼスコア 基準 120～320

γ -GTP 単位 基準 8～50

コリンエステラーゼ〈ChE〉 単位 基準 400～800

血清アミラーゼ 単位 基準 37～160

クレアチンキナーゼ 〈CK〉	単位	基準	10～40
血清浸透圧	mOsm/l	基準	275～288
鉄 〈Fe〉	μ g/ dI	基準	80～160
ビタミン B ₁₂	pg/mI	基準	250～950
葉酸	ng/ mI	基準	2.4～9.8
乳酸	ng/ dI	基準	5～20
TSH	μ U/ mI	基準	0.2～4.0
T ₃	ng/ dI	基準	80～220
T ₄	μ g/ dI	基準	5～12
Free T ₄	ng/ dI	基準	0.8～2.2
副甲状腺ホルモン 〈PTH〉	pg/ mI	基準	10～60
コルチゾール	μ g/ dI	基準	5.2～12.6
アルドステロン	ng/ dI	基準	5～10
血清ガストリン	pg/ mI	基準	20～160
血漿レニン活性 〈PRA〉	ng/ mI	基準	1.2～2.5
エストラジオール	pg/ mI	基準	25～75
尿中 17-KS (7歳男児)	mg/日	基準	0.5～1.5
尿中 17-KS (35歳男性)	mg/日	基準	3～11
尿中 17-OHCS (7歳男児)	mg/日	基準	1.0～2.1
尿中 17-OHCS (50歳男性)	mg/日	基準	3～8
尿中アドレナリン	μ g/日	基準	1～23
尿中ノルアドレナリン	μ g/日	基準	29～120

5. 免疫学検査

●CRP	mg/ dI	基準	0.3 以下
ASO (4歳女児)	単位	基準	250 以下
寒冷凝集反応	倍	基準	128 以下
抗核抗体	倍	基準	20 以下
CH50 (4歳女児)	単位	基準	25～35
CH50 (35歳男性)	単位	基準	30～40
C3	mg/ dI	基準	52～112
C4	mg/ dI	基準	16～51
α -フエトプロテイン 〈AFP〉	ng/ mI	基準	20 以下
CEA	ng/ dI	基準	5 以下
CA19-9	U/ mI	基準	37 以下
CA125	単位	基準	35 以下
SCC	ng/ mI	基準	1.5 以下

6. 生体機能検査

ICG 試験 (15分値)	%	基準	10 以下
尿中カリウム排泄量	mEq/日	基準	25～60